

肛門ガツパの親分

第3話



文 佐々岡健次

前回のお話は…

常々、肛門ガツパ親分は何処に住んでいたのだろうか？と思っていた佐々岡さんの前に、「わしの持っている土地に親分の墓があって、そこに居たんだよ。」と云う男性が現れた。そして、2人でそこへ行くことになった…というところでした。では、続きをどうぞ！

ワクワク…

車は広浜線「美又口」からゴルフ場の脇に入り、久佐に入った。

ここから、旭町側からの説明になります。「肛門ガツパの親分」の住家は、旭町丸原の上城からグリーンラインを横切り、道なりに進む。「金城」の看板を過ぎて、1つ目の道を左折する。狭い山間の「旧道」を「東下久佐」に抜けるその途中の「新生」と云う表識が左側にある所だった。

住処が…

この新生入口付近は、両側の山が迫り、まん中に小さな水の流ができています。

その流れる所こそ、親分の居た所だと云う。昔こんなせまい山間にも田んぼがあったと云うが、今はそんな面影も無く、只の雑木林になっている。川の水も枯れて細い。

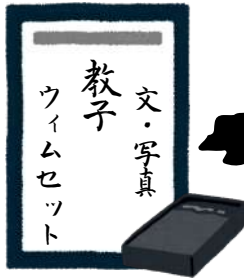


墓が…

その標識の10メートルくらい下流の手前に、小さな丘状が笹ヤブの中に見える。そこを「^{つくもづか}九十九塚」と云って、親分の「^{ふんきゅうぼ}墳丘墓」だと云う。

次回は…

やっと親分の住処と墓が分かりました！次回を、お楽しみに！



教子さん、書道教室に通う

皆さま、こんにちは！さて、私は今年から書道教室へ通っています。実は、小学校の頃に習字を4年間習ったのですが、転校をきっかけにやめたのです。いつの日か、書道に再度挑戦したいと考えていましたので、やっとナッシュビルで私の願いが叶った！という感じです。



この教室は、日本人の先生が公民館で隔週土曜日の朝に教えてくださいます。クラスの参加者は、アメリカ、ブラジル、イギリス、アフリカ、中国と様々な国の出身です。先生は、書道を好きであるという気持ちが一番大切であり、周りの誰かが言うことなんて気にしなくて良い、書道を楽しみましょう！とよく仰るのですが、私はそこに強く感銘を受けました。

また、ナッシュビルでは、毎春に桜祭りを開催するのですが、その際に私たちの教室の先生と生徒は、書道に興味のある方たちへ半紙に墨汁で日本語を書く体験をしてもらい、自ら書くことで楽しめるコーナーを作り、書道の文化を広めるボランティア活動もしています。



将来は、アメリカの子どもたちに習字を教えたいね！と先生や仲間と夢を語っているところです。こちらでも日本の書道は、生け花に負けず人気が高くなっています。私も微力ながら日本文化を広めていくためのお手伝いをしていきたいと思っています。



→ 山形出身の日本人がいるわけではなく、先生がお手本として山形という字が好きだからの理由で書きました。

海外の方の名前は、先生が当て字を作り、タイラーさんと泰良としたり、エレンさんは恵恋と書いています。カタカナで書く人もいます。

